

一般教育訓練給付制度指定講座
公認内部監査人

CIA Program

CIA

CIA Program

P.4 **CIA (公認内部監査人) とは**

P.6 **合格実績と合格者の声**

P.10 **CIA 試験について**

P.12 **カリキュラム**

P.14 **CIA プログラムの特徴**

P.20 **お申し込み方法**

P.21 **教育訓練給付制度**

P.23 **よくあるご質問**

代表からのメッセージ

経済がグローバル化し経営環境が目まぐるしく変わる中で、経営者は、企業を取り巻くさまざまなリスクを把握し、適切なリスク・マネジメントを実践していかなくてはなりません。相次ぐ企業不祥事の教訓として、コーポレート・ガバナンスの実効性に注目が集まっていることもその表れです。

今日の内部監査人には、経営者と同じ目線で社内のリスク・マネジメントをモニタリングし、かつその効果を高めていくという役割が求められています。すなわち、企業における「社内コンサルタント」としての役割が期待されており、この傾向は今後より一層強まると考えられます。

このような状況下において、内部監査人には、内部監査の基準や手続きに関する専門知識だけでなく、会計知識・法律知識・IT関連知識など、幅広い知識が必要とされています。この点、CIAの学習内容には、内部監査にとどまらず会計・IT・ファイナンス・経営戦略なども含まれています。こうした知識を内部監査と関連付けつつ学ぶことは、内部監査人としてのスキル・アップにつながることはもちろん、ビジネスにおけるグローバルな共通言語を修得することにもつながります。それが国際資格であるCIAの強みです。

皆さまのCIA取得を通じたさらなるご活躍を願っています。



アビタス代表
米国公認会計士 公認内部監査人

三輪 豊明

CIA (公認内部監査人)とは

内部監査人が実施する内部監査とは、組織体の経営目標の効率的な達成に貢献することを目的として、独立的・客観的な立場から、経営諸活動の遂行状況を検討・評価し、これに基づいて助言・勧告を行い、経営諸活動を支援する業務です。

このように書くと、内部監査に携わったことがない方は意外に思われるかもしれません。おそらく多くの方の内部監査に対するイメージは、不正・不祥事の摘発ではないでしょうか？

しかしながら、現在(そして今後)内部監査人に最も期待されることは、不正の摘発や未然防止以上

に業務の効率化につながる意見を経営陣に対して具申するといったコンサルタント的な役割なのです。つまり、内部監査人は定期的にチェックシートをマークすることだけではなく、経営者の視点に立って企業を監査し、経営者に改善を促す役目を担っています。実際、欧米の企業において、内部監査部門は経営幹部への登竜門と位置付けており、日本においてもそのような企業が出始めています。

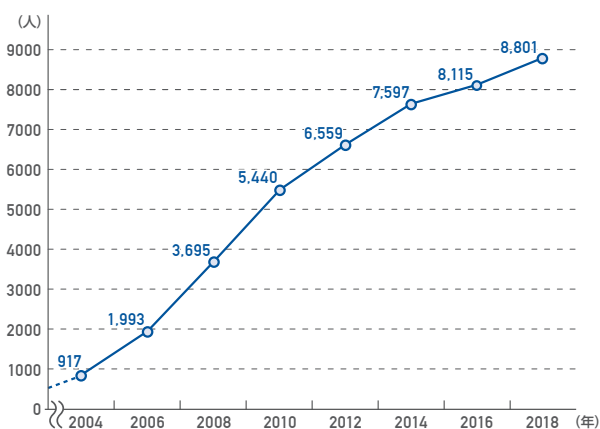


内部監査人の能力と専門性を証明する国際資格

公認内部監査人を意味するCIAとは、Certified Internal Auditorの略称であり、内部監査に関する指導的な役割を担っているIIA(内部監査人協会)が認定する国際的な資格です。内部監査人の能力および専門性を証明する目的として1974年より開始されたCIA資格認定試験は、世界約190の国と地域で実施されています。

日本では1999年より日本語受験が可能になり、2019年末の時点で9,306名がこの資格を保有しています。世界に目を向けると、2011年に資格保有者が100,000名を突破し、約160,000名(2020年時点 IIAのwebサイトより)まで増えています。

経営者の内部監査に対する期待値が高まっている近年、内部監査人の能力および専門性を証明するCIA資格の重要性もまた高まっています。一部の上場企業では、有価証券報告書において、内部監査部門にCIA資格保有者が在籍していること、CIA資格取得に向けて積極的に取り組んでいることを開示しています。



CIA累計合格者の推移

(出典：2018年までの日本内部監査協会公開情報から作成)

IIA(The Institute of Internal Auditors : 内部監査人協会)

1941年に米国で設立。国際的なスケールでの内部監査専門職としての啓発活動、内部監査の実務基準の作成、公認内部監査人(CIA)などの資格認定などを主要な活動として行い、内部監査に関して世界的な指導的役割を担っています。2020年9月時点で170以上の国と地域で約200,000人の会員を擁しています(IIAのwebサイトより)。

得られるのは内部監査の体系的知識とビジネス知識

IIA(内部監査人協会)の「内部監査の専門職の実施の国際基準」によると、「内部監査人は、自らの職責を果たすために必要な知識、技能およびその他の能力を備えていなければならない」と定めています。そして、先述の専門的能力を証明する手段としてCIA資格の取得を推奨しています。CIAを通じて得られる知識は、次の2種類に大別することができます。

①内部監査の体系的知識

従来の日本における内部監査は、属人的、属企業的方法論に左右されてきたといっても過言ではありません。

しかしながら、ビジネス活動が国境を越えるようになった現在、内部監査にも一企業の枠を超えた普遍性が求められ、内部監査人にも客観的な説明能力が要求されています。

さらに、内部監査はその重要性の高まりとともに、その手法を実務に適合するよう変化させ続けています。特定の監査手法に精通しても、その手法が今後も有効であり続けるとは限りません。

このような状況において、これからの監査を担う人材には、個別具体的な監査手法の知識以上に、内部監査の体系的知識を備えていることが求められます。CIA資格によって証明される内部監査のスキルは、IIA(内部監査人協会)の定める「内部監査の専門職の実施の国際基準」に則ったものであり、内部監査のデファクトスタンダードと位置づけられるものです。CIA資格の取得は、内部監査の体系的知識を有していることの最も有効な客観的証明となります。

②広範なビジネス知識

内部監査人にとって必要な知識は、監査に関する知識に限られません。内部監査人による監査の対象は、企業組織のあらゆる部門に及び、かつ、内部監査においては、狭義の監査のみならず、コンサルティング機能も重要なものとして位置付けられているからです。

CIA資格は、内部監査の国際基準に関する知識を証明できるのはもちろん、財務会計、管理会計、IT、ファイナンス、経営学など、ビジネスで必要な知識をコンパクトかつ体系的に身に付けている証明となります。

これらの知識は、内部監査をはじめさまざまなビジネスフィールドで、役立てていただくことができるでしょう。

column

CIA=内部監査人のための資格なのか？

今、内部監査に携わっている方にとって、CIA資格が即戦力となるのは言うまでもありません。では、内部監査部門から離れてしまった方や、内部監査の経験が無い方にとって、CIA資格は役に立たないものとなるのでしょうか？ もちろん、そんなことはありません。

CIAの学習で得る知識は、内部監査人だけでなく、ビジネスのさまざまなシーンで役立てていただくことが可能です。何よりもまず、CIAを通じて「経営者の視点」を養成することができます。例えば、有効な内部統制の維持に関しては、多忙な経営者に代わり、内部監査人が「経営者の視点」で評価を行うという構図になっております。CIAでは「どのような視点で内部監査を実施するのか」という点にフォーカスして学習します。つまり、CIAを通じて「経営者の視点」を身に付けることに繋がるのです。

また「経営者の視点」という観点においては、広範な知識も必要とされます。経営者が意思決定をするためには、経営管理に限らず、会計や財務など、幅広い知識が必要となります。

そのためCIAの学習領域には、内部監査だけにとどまらず、会計・ファイナンス・IT・経営戦略などといった経営者の「意思決定」の基礎となるビジネス知識も含まれているのです。

こうした特性から、経営スキルアップのため、もしくは、これまでのご経験を通じて得られた知識の集大成として、CIAにチャレンジされる方が数多くいます。もちろん、将来的に内部監査に携わってみたいと思われる場合「CIA取得=強い熱意の証明」につながります。

「内部監査の専門知識+包括的なビジネス知識」が身に付く資格、それがCIAなのです。

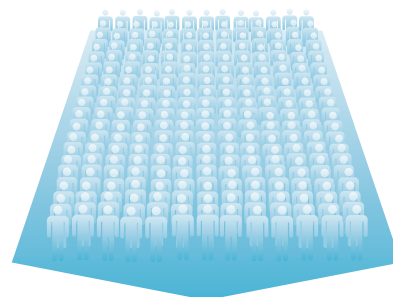
合格実績と合格者の声

アビタスのCIA合格者は **2,901名!**

2005年11月に開講したアビタスのCIAプログラム。
開講以来、順調に合格者を輩出し続け、
開講から15年で3,000名に迫る合格者数となっています。
2020年9月時点では、2,901名と圧倒的な合格実績を誇ります。

※この数値は受講生に実施したアンケート結果に基づいています。
※科目合格者、模擬試験のみの受講生は含まれていません。

2005年11月 CIAプログラム開講



2020年9月時点 **2,901名**

CIA試験のアビタス受講生累計合格者数

Message

プロの内部監査人が求められる時代

最近、内部監査が注目されるようになってきました。注目されるようになった最大の理由は、企業不祥事の発生に関連して、内部統制を整備することの重要性が認識され、経営者による内部統制報告とその外部監査が制度化される中で、内部統制のモニタリング機能を担う内部監査の重要性が認識されてきたことにあると思います。取締役会にとっても、最高経営者にとっても、内部統制を適切に整備運用したかどうかを確かめ改善してゆくために、内部監査は鍵を握る機能なのです。内部監査人の側も、高まる期待に応えるため、変身しなければなりません。単に規定や手続が遵守されているかどうかを確かめるだけではなく、企業全体の観点から、遵守の結果が企業目的の達成に役立っているかどうか、役立っていない場合にはどう改善すべきか、さらには効果的な統制をどう導入すべきかを提案していかなければならないのです。いわば内部統制確立の「推進役」を担うように期待されているのです。さらに進んで、先進的な企業ではリスクマネジメントやガバナンスの確立に貢献する役割も担うようになっていきます。期待に応えるため、内部監査人には専門知識が必要です。専門知識のある、言い換えれば「プロ」の内部監査人が求められる時代になったのです。内部監査の対象領域に聖域はないと言われるように、内部監査人は、その企業のすべての領域を対象に監査を実施します。

企業全体の観点からすべての領域を対象に監査を実施するので、若い時代に内部監査を経験することは、将来その企業のトップに立つために最高の訓練をしているともいえるでしょう。デロイト・トウシュの前会長であるシャロン・アレンさんは、内部監査人協会・国際大会でのスピーチの中で、次世代のCEOは内部監査のバックグラウンドを持つ人を含むようになるであろうと述べていました。私も、本当にそうした時代が来るかもしれないと思っています。CIAは、内部監査の専門知識を有することを証明する最も適切な資格です。若い時代に内部監査を経験したいのであれば、こうした資格を持っていることをアピールすれば良いのではないのでしょうか。



松井 隆幸氏

青山学院大学大学院
会計プロフェッション研究科教授
日本監査研究学会理事(2002年～2006年)

【著書】『内部監査(新訂版)』(同文館出版2008年)
『内部監査機能 管理の観点からのアプローチ』(同文館出版2007年)
【訳書】『内部監査の品質評価マニュアル』(同文館出版2003年)
『現代内部監査の論点』(日本内部監査協会2004年)
『続 現代内部監査の論点』(日本内部監査協会2005年)

合格者の声

試験勉強は計画・実施・評価・調整を繰り返すプロジェクト

ガバナンスを評価する部署がますます重要だと考えて

50台半ばとなり今後の会社生活の終盤戦をどのように過ごすか考えました。そして今後経営の眼として耳としてセンサーとして、ガバナンスが妥当に有効に機能しているかを評価する役割の部署や人材がますます必要とされるだろうと考えました。自分の実務経験を振り返ると経理やシステム、事務部門での経験は、監査業務で有効ではないかと考え「内部監査人」を目指してみようと思ったのが始まりです。

短期間で合格する事を最優先に

学習の選択肢は①独学②予備校—の2つでした。最大のリスクは不合格であり、このリスクを回避して短期間で合格する事を最優先とし、合格後の内部監査人としての実務期間をできるだけ長くするため、受験期間は1年間としました。このためには実績のある予備校で学ぶのが近道だと考え、先輩がアビタスで勉強し合格していたことから選びました。良かった所は、テキストがコンパクトにまとまっている事、問題集も通勤途中に開ける手頃な大きさである事、講義もポイントを押さえて分かりやすかった事、Webで問題が解けるシステムがある事、多数のCIAの合格者がおり実績がある事でした。

日々の単調な努力を黙々と続けてあきらめないで

内部監査部に異動した直後の4月からCIAの学習を開始したこともあって、実務のこの規定は基準の何番のことだなあと、実務とCIAの学習が時折リンクして双方に深みを持たせることができたと感じます。精神面では、CIAの学習を通してあきらめない気持ちを持ち続ける事ができたと思います。何より記憶力や思考力がまだまだ使える!と感じられたのはメリットだと思います。試験勉強は計画・実施・評価・調整を繰り返すプロジェクトだと思います。合格のポイントは、計画を立てたら日々の単調な努力を黙々と続けてあきらめないことです。単調さの繰り返しがいりの果実となります。皆さんの合格を応援しています。



日系金融機関
内部監査部

阿子島 隆さん

プロフェッショナルとして信頼を得られる資格

自分自身の業務品質をよりよいものに

技術系の業務に携ってきましたが、2014年4月に経営監査室に異動しました。監査業務を担当する上で、CIA資格を取得し、継続的に専門能力を開発・維持することで、自分自身の業務品質をよりよいものにしたいという思いからこの資格を取得しようと思いました。

講師の説明が丁寧で重要な部分は繰り返して説明してくれた

通学で学習しかかったので、職場と自宅に近い八重洲に学校があったことがアビタスを選んだ理由の一つです。加えて、最初に説明を聞きに行った際に親切、丁寧に公認内部監査人について説明頂いたこと、その時、見せていただいたテキストが分かりやすいと思えたことがアビタスを選んだ大きな理由です。また講義が非常に分かりやすく、講師の方の説明が丁寧で重要な部分を繰り返し説明してくださいました。

試験合格のための学習と合格後の学習

私自身が行った学習は以下の通りです。

① 講義にほとんど出席しました。出席できなかった講義はDVDで学習しました。② 講義を一通り受け終えた後に、テキストをPart1,2,3とも2回朗読しました。③ Part3については、朗読に加えて、テキストの内容をノートにまとめました。④ 上記の①～③の後で、MC(4択)カードに取り組みました。⑤ MC(4択)問題WEBプラクティスを本試験と同じ問題数、時間に設定し、演習形式をランダムにして、Part1,2,3とも2回程度行いました。⑥ アビタスの模擬試験(Part1,2,3)をそれぞれ本試験の直前に新宿本校で受験しました。CIA資格認定試験のための学習は、監査の全体的な知識とその業務の手順を修得する非常に有意義な機会であると思います。また、CIA資格保有者となることで内部監査能力を向上・発展させるための継続的専門能力開発が責務とされるので、試験合格後も自分自身の業務品質を常に向上させることができると思います。



凸版印刷株式会社
経営監査室

辻 和孝さん

合格者の声

57歳でCIA取得、今も4社の監査役として活躍

CIA資格が世界共通基準になるという予感が的中

私が受験した2007年当時、日本でCIAはほとんど知られていませんでした。しかし、監査分野の世界基準であるCIAが、日本でも米国などと同様に基準になるであろうとの予感がありました。アビタスの説明会に足を運び、テキストを手に取り、講義内容を知るに及び、この予感はますます確かなものになりました。アビタスの説明会でテキストと問題集に目を通し、いずれもしっかりと作成されているのを実感しました。コース内容や勉強法についての丁寧な説明もあり、これなら最後まで興味を持って続けられると確信しました。

共通言語があることでコワークの質と効率が顕著に向上

CIA資格を取得した57歳当時、私は上場企業の監査役の任にありましたが、監査役の仕事にCIA取得過程で得る知見は大いに活用できました。また、社内の内部監査スタッフや監査法人とのコミュニケーションで共通言語を持つことになり、コワークの質と効率が顕著に向上しました。CIA資格を取得して10年余になる今も4社の監査役を務めております。早い段階でCIA資格を取得しておいてよかったと、つくづく感じる次第です。

監査業務のプロになりたいという信念

勉強時間をどう確保するかが一番の課題でした。CIA取得を目指すほとんどの方は仕事をお持ちでしょうから、これは皆様にも共通するところだと思います。私は通勤時間が比較的長かったので、朝夕の通勤時間の活用が重要でした。そのためにテキストを章毎に裁断して袋とじし、車中で片手はつり革を持ちながらでもテキストを読めるような工夫もしました。取得にはそれなりに時間のかかる資格ですからモチベーション維持もまた共通の課題でしょう。私の場合には、監査業務のプロになりたいという思いと、CIAはその能力を客観的に証してくれるグローバル資格であることが一番の励みになりました。



株式会社グッドパッチほか3社
監査役

佐田 俊樹さん

内部監査部門と円滑なコミュニケーションを実現

監査委員会事務局に異動

監査委員会事務局への異動が決まり、内部監査について理解しておく必要があったため、CIA資格を目指すことに決めました。それまでは内部監査を受ける方の立場でしたが、監査委員会に移るということは、内部統制システムの構築・運用などを検証する立場になることを意味します。そのためには、内部監査に依拠することが不可欠であり、内部監査の制度や監査手続そのものをしっかり理解する必要性を感じました。そのためCIA資格取得を通じて、内部監査を体系的に学びたいと考えました。アビタスでは、U.S.CPA(米国公認会計士)プログラムの受講経験がありました。講義スタイルや教材、講師のクオリティ、教室やWEBでの受講環境に信頼感を持っていました。CIAもU.S.CPAと同じ国際資格であり、U.S.CPAプログラムと同様にコンテンツが充実していることが分かったため、迷わずアビタスを選びました。

内部監査部門との共通言語

監査委員会は、社内の内部監査部門と連携する立場にあります。その社内の内部監査部門ではCIA取得を奨励しているため、内部監査部門ではない自分にとってCIAを取得することは、内部監査部門との「共通言語」を得たと言えます。取得を機に、内部監査部門の社員にとって私は理解者として認識されるようになったと感じていますし、相互のコミュニケーションもとりやすくなったと実感しています。

それまでの実務経験に関する領域が得点源

CIAの学習は、内部監査の理論や手続きだけでなく、ビジネス全般の知識も必要とします。どのような立場の人が受験を目指すにしても、それまでの実務経験が必ず、いずれかの領域の得点源になります。加えて、試験問題も「落とすための試験」ではありませんので、着実に学習を進めていけば、必ず合格に到達できると思います。ぜひ、頑張ってください!



国内生命保険会社
監査委員会事務局

本間 英行さん

知識を頭に詰め込むのではなく体得していく実効性の高い学習

出題内容に即した意見交換ができた

社内のIT監査部門に異動になったことを契機に内部監査スキルの向上を目標にCIAを目指しました。当初は市販のテキストを使って独学でPART1、PART2試験に挑みましたが全く歯がたたなかったので一旦は学習を中断しました。1年半のブランクを経て、社内の優秀な後輩がCIA受験に挑むことが契機になり学習を再開。また、社内の尊敬する資格取得者の上司にアビタスを勧められたことから受講しました。半年間で順調にPART3、PART1に合格しましたのでアビタスのおかげで効率的な学習ができたと思います。ただしPART2に苦戦し、合格までさらに2年超えました。不合格になる度に出题された問題を思い出し、受講生マイページから意見交換をさせていただき、丁寧な回答のもとで解答を追及し続けました。アビタスのプロの方々に出題内容に即した個別な意見交換ができたことが最大のメリットでした。

名刺を渡すと一目置かれる反応に

CIAの学習を通して広い範囲での監査スキルを修得できました。ただ、業務の大半が監査実務との関連性が低いという事情があり、まだほとんど役に立っていませんが、社外の知り合いにCIAと記載した名刺を渡すと、一目置かれた反応を示されます。これからもっとメリットを享受できるように活動していきたいと思っています。

プロの講義を聞き意見交換を

CIA試験は、問題が非公開で、効果的な参考書も無い中、独学では手探りで学習することになります。受験料も高いので余程の取得意欲のある人でなければ、合格までに経済的、時間的、精神的にもかなりの負担がかかるものだと思います。CIAを取得したい方には、独学で学習するのではなく、プロの方々の講義を聞き意見交換を通して、知識を頭に詰め込むだけでなく体得していくことで、実効性の高い学習をしていくことを勧めます。



会社員

日吉 一郎さん

ワーキングマザーの挑戦! 基礎を知ることの楽しさと重要性を実感

「会社の成長に寄与する監査」の証として

監査の仕事は日本ではまだ歴史が浅く、長く会計監査に限定されていた監査役においても例外ではありませんでしたので、監査に関する情報やノウハウは属人的で少ないものでした。しかし、商法から会社法への改正に伴って行われた監査役の権限強化の流れの中、「単なる監視ではなく、会社の成長に寄与する監査が必要ではないか」と考えた時、その基礎を身に付ける必要性を感じるとともに、近年、高まりを見せているCIA資格は「基礎を身に付けている証」として必要ではないかと思い、受験を決めました。

講義が分かりやすく質問回答も丁寧だった

受験するにあたっての一番のハードルは「時間の確保」でした。私は働くママですので、仕事、家事、子育てに加えて勉強の時間を確保することは、簡単なことではありませんでした。通信教育では勉強が後回しになり、結局無駄にするのではと諦めかけていた時、大阪での開講を知り、「これなら強制的に勉強する時間が作れる」と申し込みました。講義は、恥ずかしながら驚きと発見の連続で、「そういうことだったのか」と半ば興奮しながら帰途につくことも珍しくなく、基礎を知ることの重要性を痛感しました。同時に講義は非常に分かりやすく、勉強から少し外れた質問にも丁寧に答えていただき、資格取得だけでなく実務にも役立ちました。資格取得に関しては、問題集がとても役立ちました。問題集がぼろぼろになるまで何度も解いたお陰で、自信をもって試験を迎えることができました。

「監査の実効性や質」はますます重視される

J-SOXが施行され、監査に対する需要は今後も拡大すると思われます。また、不祥事が続く中、企業も「監査の実効性や質」について、今後ますます重要視されていく中で、公認内部監査人(CIA)資格は、監査スキルの証として、監査部門の必須の資格となっていくのではないかと思います。



株式会社プロネクサス
ディスクロージャー研究部

田中 真左子さん

CIA試験について

■試験内容と合格基準

Part1、Part2では内部監査規準に関する「深い理解」が求められます。
一方、Part3の出題範囲は広範にわたり「浅く広く」学習する必要があります。
また、CIA試験は科目合格制度を採用しているため、1Partずつ受験されることをお勧めします。

試験内容 ※2019年10月～

	科目名	出題形式	問題数	試験時間
Part1	内部監査に不可欠な要素	4 択	125問	2時間30分
Part2	内部監査の実務	4 択	100問	2時間
Part3	内部監査のためのビジネス知識	4 択	100問	2時間

合格基準

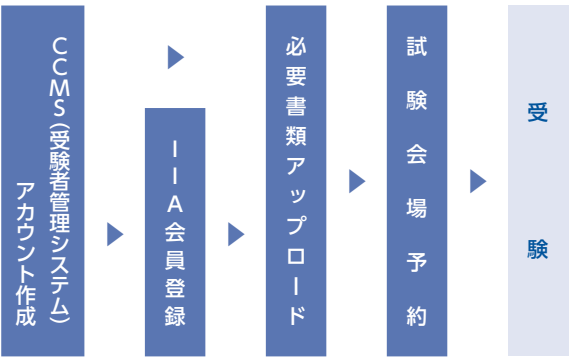
CIA試験のスコアは、各Partいずれも250～750ポイントのスケールド・スコアに換算され、600ポイント(おおむね75%の正答率)以上で合格となります。合格率は公表されていません。

■コンピュータ試験(Computer-based Testing:CBT)

CBTのため、自由度が非常に高い試験であることが特徴です。多忙なビジネスパーソンでも受験に取り組みやすくなっています。また、世界中で日本語による受験が可能です。

受験までの流れ

手続きは全てオンラインで完結できます。詳細なマニュアルをご用意しています。



試験結果

試験終了後、試験会場にて仮結果が発行されます。
受験から72時間以内にCCMSアカウントに反映されます。

試験日程および会場

ピアソンVUE (<http://www.pearsonvue.com/japan>) が指定する世界約500カ所のテストセンターにて、お好きな日に受験することができます(東京・札幌・仙台・横浜・名古屋・大阪・広島・松山・福岡・沖縄)。*
ただし、同一科目の再受験に限り、受験日の61日目以降でなくてはなりません。
※2020年9月現在

受験料

IIA (内部監査人協会) 会員かどうかで受験料が異なります。
※「IIA個人会員」料金は、受験申込書の提出時点で個人会員手続きが完了している方のみ適用されます。

	IIA個人会員	IIA個人会員以外
登録料	¥12,000	¥25,000
Part1	¥31,000	¥44,000
Part2	¥25,000	¥38,000
Part3	¥25,000	¥38,000

■ 受験条件と資格認定条件

受験条件

【教育要件】

4年制大学を卒業。

※教育要件を満たされていない方で、以下のいずれかの要件を満たしている場合は認定の対象となります。

- ・短期大学または高等専門学校(高専)を卒業されており、5年以上の実務経験があること(※1)
- ・7年以上の実務経験があること(※2)

(※1)受験申請の時点で最低2年の実務経験があることが条件 (※2)受験申請の時点で最低4年の実務経験があることが条件

【推薦】

受験者は高い倫理観と専門職としての適格性を示さなければなりません。

受験者はIIAの「倫理綱要」に照らし、「CIA(公認内部監査人)」という資格に求められる人物像として適格な人物である。」という、客観的立場の第三者による推薦が必要です。

資格認定条件

CIAとして資格認定を受けるためには、全科目合格に加え、下記の条件を満たすことが必要です。

【実務経験】

2020年以降で、内部監査またはこれに相当する業務(内部監査、品質のアシュアランス、リスクマネジメント、監査・評価・懲戒、コンプライアンス、外部監査、内部統制)2年以上の実務経験

※会計・法律・ファイナンス・経営に関する修士取得者は、実務経験1年分に充当されます。

また、内部監査またはこれに相当する2年以上の教職経験は、実務経験1年分に充当されます。

受験申込登録完了日(IIA本部への登録が完了した日)より、3年以内に全科目に合格し、かつ、実務経験の証明を含む資格認定手続きを完了している必要があります。)

3年以内に上記の手続きが完了していない場合、それまでに合格した試験またはPartは無効となります。

※3年の有効期限内に申請手続きをすることで、期限を1年延長することができます(1回限り)。

継続教育制度(Continuing Professional Education / CPE)

CIA認定者が専門職としてふさわしい能力・知識の開発を継続し、称号を維持するに値することの証明を目的とした制度です。CIA資格認定を保持するためには、1年毎に所定のCPE単位(内部監査実務に従事している場合:40CPE単位、従事していない場合:20CPE単位)の取得が必要となります。ただし、認定を受けた年とその翌年の2年間は報告免除期間になります。



CIA認定者は、12月の所定の日までにCPE単位を報告し、同時に資格更新手数料(IIA個人会員¥3,564、非会員¥15,000)の支払いが必要となります(2019年2月時点)。上記の要件を満たせない場合、Inactive(活動休止)というステータスになります。Inactiveが12カ月以上継続し、再度資格認定を希望する場合は、必要CPE単位(復帰する年と前年の2年分)の報告に加え、復帰手続き手数料(IIA個人会員¥10,500、非会員¥35,000)の支払いが必要となります。

カリキュラム

アビタスのカリキュラムは、試験範囲を記したIIA (内部監査協会) の「シラバス」に完全準拠した構成です。グローバル化とITの進歩を背景として、国際的実務に対応できるよう、講義も進化を続けています。

■ IIAシラバス完全準拠の全29回 72.5時間

Part1

内部監査に不可欠な要素 各2.5時間 講義22.5時間

Part1では、内部監査を行う上で必須となる基礎知識を一通り扱います。具体的には、内部監査に求められる資質について定めた属性基準を学習します。内部監査の独立性・客観性についての基本概念や、ガバナンス、リスク・マネジメント、コントロールなど、監査業務の実施に必要な基本技術を学習します。

第1回	内部監査概論
第2回	独立性と客観性 熟達した専門的能力および専門職としての正当な注意
第3回	熟達した専門的能力および専門職としての正当な注意 品質のアシュアランスと改善のプログラム
第4回	ガバナンス
第5回	リスク・マネジメント
第6回	リスク・マネジメント
第7回	コントロール
第8回	コントロール 不正リスク
第9回	MC (4択) 問題解説講義

Part2

内部監査の実務 各2.5時間 講義20時間

Part2では、監査の手続きについて定めた実施基準を学習します。部門の管理から始まり、計画、監査終了後のモニタリングに至る一連のプロセスの中で、内部監査人が果たす役割について学習します。また、業務監査や個々の業務の実施としてサンプリングや分析手続きなど具体的な監査手続を学習します。

第1回	内部監査部門の管理
第2回	内部監査部門の管理 個々の業務に対する計画の策定
第3回	個々の業務に対する計画の策定 個々の業務の実施
第4回	個々の業務の実施 分析的手続き
第5回	サンプリング
第6回	業務監査
第7回	個々の業務の結果の伝達 および進捗状況のモニタリング
第8回	MC (4択) 問題解説講義

Part3

内部監査のためのビジネス知識 各2.5時間 講義30時間

Part3では、主に監査を実施するに当たり内部監査人が習得しておくべき知識について扱います。組織行動やリーダーシップなどのビジネス感覚や財務会計・管理会計・ファイナンスといった財務管理を学習します。中でも、情報技術やサイバーセキュリティなどの情報セキュリティといったIT分野が最大のドメインとなります。

第1回	戦略	第5回	情報技術	第9回	ファイナンス
第2回	業績測定方法 組織行動	第6回	情報セキュリティ	第10回	管理会計
第3回	リーダーシップ 組織構造とビジネスプロセス	第7回	財務会計	第11回	管理会計
第4回	データ分析 情報技術	第8回	財務会計 ファイナンス	第12回	MC (4択) 問題解説講義

※講義時間はライブ講義。講義回数、内容を変更する場合があります。

オプション講座

CIA財務会計入門 eラーニング通信限定コース

eラーニング

合計8時間

CIA試験のPart3では、財務会計・ファイナンス・管理会計が出題範囲に含まれます。

CIAコースの講義は、簿記3級程度の知識を有していることを前提に進行しますので、会計の学習・実務経験をお持ちでない場合、Part3学習前に当コースの受講をお勧めします。

第1章	企業会計の基本を知る
第2章	発生主義と利益の本質を知る
第3章	会計の記録方法と会計処理システム

第4章	収益・費用の認識ルールとP/L
第5章	固定資産と減価償却
第6章	不適切会計と財務諸表分析

column

Q どのPartから学習してもよいですか？

A Part1から、またはPart3から学習することをお勧めします。

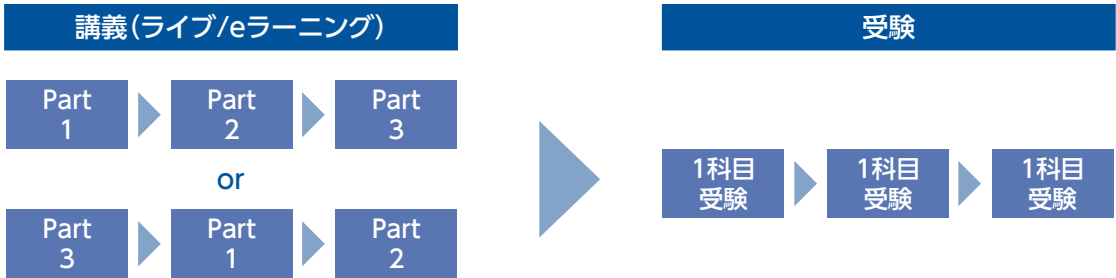
アビタスではPart1,2,3の順、または、Part3,1,2の順番を推奨しています。Part1とPart2は、関連が深く連続して学ぶ必要がある一方で、Part3は独立しており、Part1より先に学習しても支障がないためです。

Q 1科目だけ学習して1科目受験する、という受験スケジュールでもよいですか？

A 全科目受講してから1科目ずつ受験する方が望ましいです。

CIA(公認内部監査人)試験は、各Partの学習内容が密接に関連しています。また各Partの試験範囲をまたがるような出題がされる場合があり、科目合格のためであっても、全Partの内容を一通り理解しておく必要があります。そのためアビタスでは、全3科目の講義を一通り受講して全体像を掴んでから、1科目ずつ復習して受験されることを推奨しています。

アビタスが推奨する学習の進め方



CIAプログラムの特徴

アビタスのCIAプログラムは、オリジナル教材と充実のサポート体制で、多くの合格者を輩出してきました。講義、テキスト、問題集がそれぞれリンクし合っているので、トピックごとに効率的に学習できます。前提知識がない方も400時間で合格を狙えます。

■ リンクし合う学習ツールを活用し、400時間で合格を実現



1 「わかりやすさ」に重点をおいた講義

「初学者でも理解できる」講義が基本ポリシー

アビタスの講師陣は専門分野に精通しているだけでなく、高いティーチングスキルを誇ります。内部監査・内部統制という捉えにくい概念も、具体例を交えながら興味を引き出すように説明します。このため、理解の定着が驚くほど容易に進みます。

「品質管理」の徹底

全ての講師は、同一のシラバスとスライドに基づき講義を行っています。したがって、通学コース・通信コースによって講義内容や進度が異なるということが起こりません。

さらに、毎学期、受講生による講師の評価を実施しており、即講師にフィードバックすることにより、継続的な改善につなげる体制を整えています。

2 スモールユニット方式・MC(4択)問題eラーニング全問解説

スモールユニット方式〈通信コース・通信限定コース〉

スモールユニット方式は、講義をトピックごとに細分化しているため、その項目について他の項目と知識を混同せず、理解を定着させることができます。

また、1ユニット平均28分で完結するので、スキマ時間を使った学習も可能となります。タブレットやスマートフォンにも対応しているため、移動時間を活用した学習も可能です。eラーニングとライブ講義の内容は同じです。

講義視聴	平均12分
問題演習	平均5分 5分
問題解説	平均5分 11分

1ユニット

(講義視聴+問題演習+問題解説)

平均**28分**

eラーニング画面〈講義動画をPC・タブレット・スマートフォンで視聴可能(2年間)〉

講義画面

1ユニットが1画面で完結

The screenshot shows a video player with a lecture titled '1-1: 内部監査の定義' (Definition of Internal Audit). The sidebar on the right contains a table of contents for the unit, including '1-1 ユニット情報' (Unit Information), '視聴時間' (Viewing Time), 'テキスト' (Text), and 'MC問題' (MC Questions). The video player has a '最大2倍速まで対応' (Supports up to 2x speed) button.

ユニットごとに講義と関連問題、問題解説講義が表示される

問題演習

問題解説

対応する問題にすぐアクセスしてオンライン上で演習が可能

※通信コース・通信限定コースの講義視聴コンテンツはeラーニングでのご提供となります。

DVDでの視聴をご希望の方は、講義を収録した(問題解説講義を含まない)DVDをオプションでご購入ください。

MC(4択)問題 eラーニング全問解説

アビタス問題集収録の全問題に対して、「MC(4択)問題解説講義」動画を提供しています。ご自身で悩んだり調べたりする時間をカットして、一気に問題に対する理解を深めることができ、大幅な時間の節約となります。

■設問の意図の理解

The screenshot shows a question titled 'CIA1000001' with the text '内部監査業務に含まれるのは次のどれか。' (Which of the following is included in internal audit work?). The options are: a. アシュアランス(保証)業務のみ (Only Assurance (Guarantee) work), b. コンサルティング業務のみ (Only Consulting work), c. アシュアランス業務とコンサルティング業務の両方 (Both Assurance and Consulting work), and d. アシュアランス業務、コンサルティング業務のいずれでもない (Neither Assurance nor Consulting work).

■解法の徹底解説

The screenshot shows a detailed explanation of the question. It includes a '解説' (Explanation) section in Japanese and an '英文' (English) section. The Japanese text explains that internal audit is an independent, objective assurance and consulting activity designed to add value and improve an organization's operations. It helps an organization accomplish its objectives by bringing a systematic, disciplined approach to evaluate and improve the effectiveness of risk management, control, and governance processes.

CIAプログラムの特徴

アビタスのCIA教材は、試験傾向をふまえた上で精選し、約280の重要トピックで構成しています。学習すべき内容がトピックごとに細分化しており、効率よく学習を積み重ねていただくことが可能です。さらに、講義、テキスト、問題集をユニット番号で結び付けているため、講義視聴から関連する問題の演習まで、トピックごとにスムーズに行うことができます。

テキスト・電子テキスト

精選された重要ポイントを豊富な図解を交えてわかりやすく解説

理解すべき論点について豊富な図解を交えて解説するオリジナルテキストは、複雑なコンセプトも一目で理解できるように編集しています。



基準
内部監査の国際基準(IPPf)の内容を説明した部分です。

2 1-1 内部監査の定義

1-1 内部監査の定義

図解 内部監査の定義

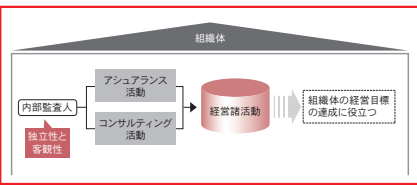
内部監査は、組織体の運営に関し価値を付加し、また改善するために行われる、独立にして、客観的なアシュアランス及びコンサルティング活動である。内部監査は、組織体の目標の達成に役立つことにある。このために、リスク・マネジメント、コントロール、およびガバナンスの各プロセスの有効性の評価、改善を、内部監査の専門職として規律ある姿勢で体系的な手法をもって行う。

原文 Internal auditing is an independent, objective assurance and consulting activity designed to add value and improve an organization's operations. It helps an organization accomplish its objectives by bringing a systematic, disciplined approach to evaluate and improve the effectiveness of risk management, control, and governance processes.

図解 内部監査とは

内部監査の本質は、組織体の経営目標の達成を目的として、独立性と客観性の立場で、経営諸活動の遂行状況を検討・評価し、これに基づいて助言・勧告を行い経営諸活動の支援をする業務である。

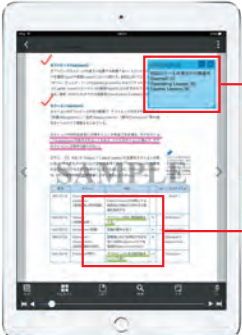
次頁で、内部監査の定義で使われている用語について解説する。



用語解説
難解な専門用語もわかりやすく解説しています。

MC 1-1-1 ~ 1-1-4

ユニット番号で、テキストと問題集を結び付けています。



メモ機能
テキスト形式で補足文を入力

色分け機能
直線と色分けで重要部分をハイライトできる

さまざまな学習環境に対応できる電子テキストもご利用可能

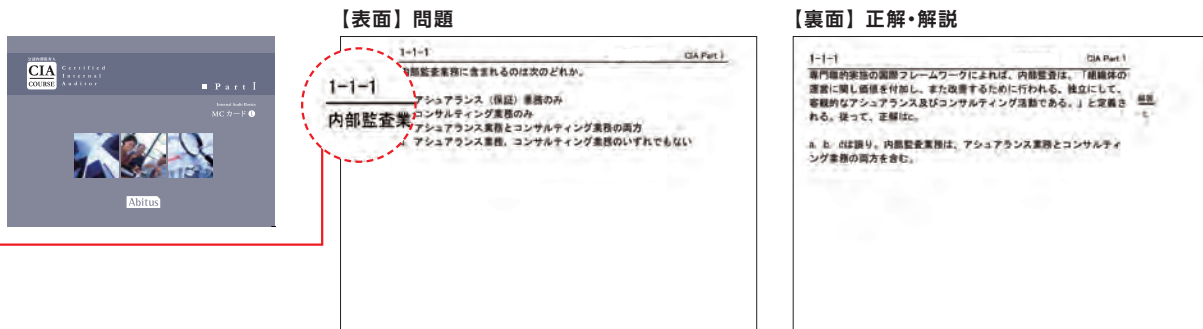
時間と場所に縛られることなく学習を進めていただけるように、テキストを電子化しました。インターネットブラウザ上でいつでもご利用いただけます。電子テキストには、メモや単語検索といった学習をサポートする機能が満載で、学習機会を逃しません。 ※端末はご自身でご用意ください。

- ・テキストがインターネット上で見られる
- ・メモや書き込みを端末間で同期
- ・機内などオフライン環境下でも利用可能 ※専用アプリをダウンロードしたiOS端末のみ
- ・網羅的・高速なテキスト検索機能で、専門用語を全テキストの範囲で一度に検索可能

MC (4 択) カード問題

持ち運び可能なA6サイズの問題集で、スキマ時間でも問題演習可能

A6サイズの問題集は持ち運びに便利で、通勤時間などのスキマ時間も有効に活用して演習することができます。全ての問題においてアビタスオリジナルの解説を加えており、正答の解説のみならず、誤答の選択肢について「なぜそれが誤答であるか」も解説を加えています。さらに、全問について解説動画もご用意しています。間違えた問題や理解が不十分であると感じる問題については、解説動画を視聴することで理解をさらに確実なものにすることができます。こうした問題演習を通じて、本試験での応用力・得点力を向上させることができます。



MC (4 択) 問題 WEBプラクティス

本試験に近い環境で実践的トレーニング

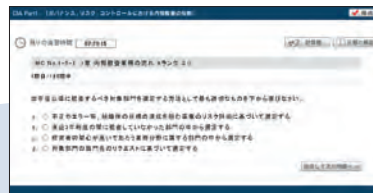
本試験に近い形での問題演習がWEB上で可能です。章ごとに演習、間違えた問題のみ演習、ユニットごとに演習、さらにはランダムに抽出しての演習ができますので、学習の進捗に合わせた実践的な問題演習ツールとしてご利用いただけます。

※収録問題はMCカード問題集と同一です。



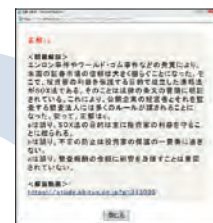
【演習設定画面】

MC (4 択) カードの問題番号順に、あるいはランダムに演習することができます。本試験と同じ演習時間と問題数を設定することで、本試験と全く同じ条件での問題演習を可能としています。



【演習画面】

MC (4 択) カードの問題をコンピュータ画面上で演習することで、本試験環境に慣れることができます。



【正解と解説画面】

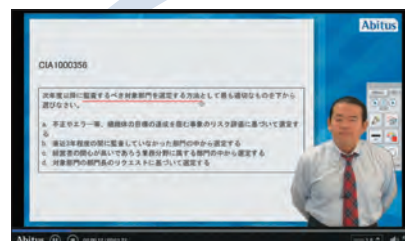
問題演習の途中で、個々の問題の正解と解説を確認できます。

【スマホで使える MC (4 択) 問題アプリ】

MC (4 択) 問題のアプリを開発しました。スマートフォン、タブレットにダウンロードすれば、通勤電車の中、出張の飛行機内など、いつでも手軽に演習できます。

- ・オフラインで動作
- ・選択肢シャッフルモード搭載

※iPhone/iPadまたはAndroid端末で動作します。
端末はご自身でご用意ください。



【MC (4 択) 問題 eラーニング全問解説】

問題解説を読んでも理解が不十分と思った場合には、eラーニングの問題解説講義を視聴することができます (MC (4 択) 問題全問)。

3 安心の2年間サポート

CIA資格の特性上、忙しいビジネスパーソンが学習されるケースがほとんどです。お仕事やご家庭の事情などにより、学習の中断を余儀なくされた方でも学習を継続できるように、2年間の受講サポート体制を用意しています。いずれのコースも、学習に関する質問回答サービス、受験手続サポート等を2年間無料で受けられます。また、通学コースと通信コースの受講生は、入学後の2年間ライブ講義への出席が無料です(受講生マイページからの予約が必要です)。

通学コース	通信コース	通信限定コース
通学に便利な新宿、八重洲、大阪の3校にて週末および平日に講義を行います。お好きな校舎で学習できるコースです。 再受講は無料(2年間) お仕事の都合などで学習を一時中断する場合も安心です。 校内自習ブース無料利用可能(2年間) 欠席時のフォロー学習や、予習・復習時にご利用ください。 各校にはWi-Fiも完備しています。自習室開放時にご自身のPCなどで学習いただけます。	eラーニングで好きな時間・場所で学習可能です。各講義何度でも視聴可能です(2年間)。 ライブ講義にも無料で出席可能(2年間) 安定した学習ペースを維持したり、学習モチベーションを高めることができます。 校内自習ブース無料利用可能(2年間) 自宅では集中できない場合など、スクールの自習室を利用して学習を進められます。 各校にはWi-Fiも完備しています。自習室開放時にご自身のPCなどで学習いただけます。	eラーニングで好きな時間・場所で学習可能です。各講義何度でも視聴可能です(2年間)。 通学が難しい方にお勧め 海外や遠方にお住まいの方にお勧めです。

通学クラスの開講スケジュール

新宿本校・八重洲校にて年4回、大阪校にて年2回開講します。
Part1の開講にタイミングが合わない場合は、Part3からスタートされることをお勧めしています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新宿本校	4月期 (集中クラス)			7月期 (集中クラス)			10月期 (集中クラス)			1月期 (集中クラス)		
	Part 1	Part 2	Part 3	Part 1	Part 2	Part 3	Part 1	Part 2	Part 3	Part 1	Part 2	Part 3
八重洲校	4月期 (集中クラス)			7月期 (集中クラス)			10月期 (集中クラス)			1月期 (集中クラス)		
	Part 1	Part 2	Part 3	Part 1	Part 2	Part 3	Part 1	Part 2	Part 3	Part 1	Part 2	Part 3
大阪校	4月期 (通常クラス)						10月期 (通常クラス)					
	Part 1		Part 2		Part 3		Part 1		Part 2		Part 3	

※同一期の同一講義の受講は1回限りです。
※サポート期間(受講期間)2年の間に教材改訂があった場合、電子テキストで追加料金なく最新テキストをご覧いただけます。
紙の教材を別途ご購入いただくことも可能です。

学習サポート体制

学習中

■ 受験手続きサポート

願書記入方法を含む受験手続きについて、受講生サービス部によるガイダンスを開催しています。また、推薦状(初回出願時に必要)のサインを無料で承っていますので、お気軽にご相談ください。

■ 学習に関するイベント

当校CIA合格者を招き、グループカウンセリング形式の相談会を開催しています。また、質問教室、学習方法に関するパネルディスカッションも定期的に関き、学習ノウハウを共有しています。

■ 模擬試験(受講生限定・有料オプション)

実際の試験さながらの環境で、予行演習としてご利用いただけます。アビタス校内もしくはご自宅にて受験することが可能です。

■ 質問回答サービス

受講期間中は、学習内容や受験手続きに関する質問回答サービスを利用いただけます。質問数は無制限です。

※各質問に対する回答には最長で10日間をいただきます。また週3件を超える質問に対しては、翌週分の質問として対応させていただきます。

■ 高度専門職スキル養成講座(有料オプション)

外部専門家とのコラボレーションにより、資格取得のための体系的学習とは異なる実践的プログラムを提供しています。当講座は全て継続教育(CPE)活動として報告することが可能です。

■ 合格者パーティー

合格後、アビタスにご報告いただいた方には合格者パーティーへのご招待がございます。業界を超えた交流を行うことができます。

■ 転職サポート

合格後に転職をお考えの方は、アビタス・キャリアセンターをご利用ください。当校受講生の方は学習中から情報提供やサポートを受けることができます。



合格後

お申し込み方法

■ お申し込み方法

申込書またはWebでお申し込みいただけます。

Web

各校または cia@abitus.co.jp までご希望のコースをお知らせください。当校スタッフからメールで申し込み用URLをご案内いたします。

申込書

申込書に必要事項をご記入の上、各校までご持参いただくか、郵送、ファクス、メール添付でお送りください。

■ お支払い方法

現金／銀行振込

現金でのお支払いは、各校窓口にて。銀行振込の場合は、下記銀行口座までお振り込みください。

三菱UFJ銀行 新宿中央支店 普通 3823200 株式会社アビタス

クレジットカード(Web) ※通学コースはご利用いただけません。

ご利用可能なカード会社はVISA・MasterCard・JCB・アメリカンエクスプレス・ダイナースの5社です。



◆ 選択可能なカード支払い回数
(ご利用のクレジットカード会社により異なります)

1回・3回・5回・6回・10回・12回・15回・18回・24回・リボ払い

受講料のお見積もり

■ アビタスよりメールにてお見積もりのご案内を差し上げます。メールに添付されているURLをクリックしてください。

見積もり内容のご確認

■ サイト上のお見積もり画面で内容を確認、個人情報を入力の上、クレジットカード決済の手続きを進めてください。
■ 「申込規約」に同意いただく必要があります。

カード決済の受付完了

■ メールにてお手続き完了のお知らせが届きます。

受講開始

■ 教材の発送を行います。
なお、現金払いとの併用がある場合は、現金のお支払い後になります。

ローンによる月々分割払い(Web)

月々の分割払いを低金利でご利用いただけます。ボーナス併用払いも可能。

お手続き後、通常即日～2日程度でローン審査完了。可決後すぐに学習をスタートしていただけます。

(詳細は各校にご確認ください)

分割回数：1～60回。

下記事項をシミュレーションいただけます(Web)。

● 分割回数 ● ボーナス併用払いの利用有無とボーナス月の加算額

ご請求書発行について

- 1 お申し込み書に必要事項をご記入の上、cia@abitus.co.jpにファイルを送信、もしくは各校舎にご持参、ご郵送ください。
- 2 ご請求先 貴社名・部署名・ご担当者様の氏名、送付先住所・電話番号・メールアドレスなども併せてお知らせください。
- 3 追ってご請求書をご送付いたします。

※ 受講料振込後の役務提供となりますのであらかじめご了承ください。

教育訓練給付制度

CIAプログラムは厚生労働省「一般教育訓練給付制度」対象講座です。受講料の20%が戻ります。

■ 支給対象者

雇用保険の一般被保険者

当講座の受講開始日※において、雇用保険の一般被保険者であった期間が1年以上の方が対象になります。以前に当制度をご利用された方は、前回利用した講座の教育訓練給付金の支給決定日から、雇用保険の一般被保険者としての期間が3年以上経過していれば再度受給が可能です。

※受講開始日とは、通学コースの場合は開講日、通信コース・通信限定コースの場合は教材などの発送日になります。

※支給決定日は受給申請者に対して、ハローワークから送付される「教育訓練給付金（一般教育訓練）支給／不支給 決定通知書」に明記されます。

雇用保険加入期間	支給される金額
初めてご利用の方 1年以上	受講料の 20%
2回目以降ご利用の方 3年以上	

雇用保険の一般被保険者であった方

一般被保険者資格を喪失した日（離職日の翌日）から当講座の受講開始日※までが1年以内の方であり、上記の条件を満たしている方。

※受講開始日とは、通学コースの場合は開講日、通信コース・通信限定コースの場合は教材などの発送日になります。

■ 給付金受給までの手順

① 当校の指定講座にお申し込み

② 当校の講座修了要件を満たす

- 修了要件については下記をご参照ください。
- 通学コースの方は集中コース（新宿・八重洲）または通常コース（大阪）の受講修了月に、「修了試験」を受験していただきます。
- 通信コースの方は受講生マイページ上で「添削問題」を当校が指定した提出期限までに提出して合格していただく必要がございます。

③ 当校より「教育訓練修了証明書」を発行

- 受講修了日経過後、「教育訓練修了証明書」「教育訓練給付金支給申請書」「受講料領収書」「経費等確認書」を当校より郵送いたします。

④ ハローワークにて支給申請

- 受講修了日の翌日より1カ月以内に「教育訓練給付金支給申請書」「教育訓練修了証明書」「受講料領収書」「本人住所確認書類」「雇用保険被保険者証」「経費等確認書」「本人名義の預金通帳」「マイナンバーカード（もしくは通知カード+顔写真付身分証明書）」を住民票記載の住所を管轄するハローワークに提出し、支給申請を行っていただきます。

■ 支給対象講座の修了要件

教育訓練講座名称	実施方法	訓練期間	教育訓練経費			支給金額 (20%)	修了要件
			入学金	受講料	合計		
CIA（公認内部監査人） 通学集中コース （新宿週末祝日or八重洲平日）	通学	4カ月	¥11,000	¥231,000	¥242,000	¥48,400	70%以上の出席率があり、修了試験において、全科目100点満点中70点以上の成績を収めること。
CIA（公認内部監査人） 通学通常コース （大阪週末祝日）	通学	5カ月	¥11,000	¥231,000	¥242,000	¥48,400	70%以上の出席率があり、修了試験において、全科目100点満点中70点以上の成績を収めること。
CIA（公認内部監査人） eラーニング通信コース	通信	5カ月	¥11,000	¥242,000	¥253,000	¥50,600	添削問題において期間内に全科目100点満点中70点以上の成績を収めること。
CIA（公認内部監査人） eラーニング通信限定コース	通信	5カ月	¥11,000	¥231,000	¥242,000	¥48,400	添削問題において期間内に全科目100点満点中70点以上の成績を収めること。

※いずれも消費税10%込です。税率は変更される可能性があります。

※支給金額は割引額によっても変動いたしますので、ご注意ください。

各種イベント

無料説明会



CIA試験や当校プログラムについて詳しく知りたい方のための、無料説明会を開催しています。受講をご検討中の方は、お気軽にご参加ください。

無料カウンセリング



皆さまの疑問に専任アドバイザーが丁寧にお答えします。

- テキストや問題集を見たい
- 学習プログラムの特徴についてもっと知りたい
- 学習計画や勉強時間について相談したい
- 申し込み方法やローンについて確認したい

無料体験講義



学習を開始する上で、やはり講義の雰囲気やクオリティは気になるものです。当校では、定期的に無料体験講義を開催しています。まずは実際の講義をご体験ください。

column

内部監査向上における取り組み

高度専門職スキル養成講座

アビタスでは、「高度専門職スキル養成講座」と題し、外部専門家とのコラボレーションにより、資格取得のための体系的学習とは異なる実践的プログラムをご提供しています。当講座は全てCPE活動(1CPE単位=50分)として報告することが可能です。アビタス受講生には安価でご提供していますので、合格後の認定保持も安心です。

過去に行われたライブ講座事例(今後も定期的に開講予定)

千葉商科大学(CUC)会計専門職大学院とのコラボレーション

- 創業時をサバイブする起業における5つのポイント
- 海外M&Aにおける会計上の諸問題
- 理想の監査と現実の監査(外部監査編)

オンライン講座

ライブ講座の他、オンライン講座もご用意しています。オンライン講座では、上記ライブ講座を収録した映像の他、会計や監査に関する独自コンテンツもあります。ご自宅のPCで時間を問わず講座を受講していただくことが可能なため、お忙しい方も安心してCPE単位を取得していただけます。

詳細については、『高度専門職スキル養成講座(オンライン版)』Webサイトをご覧ください。

高度専門職スキル養成講座(オンライン版)



よくあるご質問

■ 試験について

Q. CIAの試験日はいつですか？

A. 試験は通年で実施されています。ピアソンVUEのテストセンターにてお好きな日程で受験することが可能です。※ただし、初回の受験手続には2.5カ月程度を要しますのでご注意ください。

Q. 受験の手続方法を教えてください。

A. 日本内部監査協会のWebサイトに提出書類のExcelファイルが用意されています。印刷後に直接記入の上、協会宛に郵送していただけます。併せて、当パンフレット10ページにある受験手続きで作成したCCMS アカウントで必要情報を入力し、書類をアップロードします。

Q. PC操作にあまり自信がないので、受験するのが心配です。

A. 試験問題は全て4択になっています。解答方法は、正しい選択肢をクリックするだけで済みますのでご安心ください。

Q. 海外でも日本語で受験することは可能ですか？

A. はい。試験予約の際に日本語を選択していただければ結構です。

Q. 海外でCIAを受験する場合には、手続きはどうなりますか？

A. お住まいの国により、受験申込み方法や受験料が異なります。詳しくはIIA Webサイトでご確認ください。

■ 資格認定について

Q. 資格認定条件における実務経験の証明方法は？

A. 受験手続きで作成したCCMSアカウント上で必要事項を記載し、実務経験証明者からの承認が必要です。実務経験の証明に関しては、当パンフレット11ページに記載している実務経験の内容が、そのままチェック項目となっており、該当される項目にチェックを入れる形式です。具体的な実務経験の内容をご自身で記載される必要はありません。

Q. 継続教育(CPE)にかかる費用は、どの程度になるのでしょうか？

A. イベント・講習会への参加など非常に多様な手段があり、またその費用も様々です。ご参考までに、アビタスの「高度専門職スキル養成講座」の場合、1CPE単位あたり¥2,000を目安にしております。

Q. 全Part合格後、いつまでに認定を受けなくてはならないという決まりはありますか？

A. 2019年8月28日以降、受験申込登録完了日(IIA本部への登録が完了した日)より、3年以内に全科目に合格し、かつ、実務経験の証明を含む資格認定手続が完了しない場合は、合格実績が全て無効になります。ただし申請により有効期限を1年延長することが可能です(1回限り)。

Q. 継続教育の単位であるCPEは、時間に換算すると何分ですか？

A. カンファレンスやコンベンションへの参加、講座の受講など、1CPEは50分に換算されます。

■ 学習について

Q. CIA財務会計入門コースは必ず受講しないといけないのですか？

A. 当コースは、財務会計の基本的な知識をお持ちでない方を対象にした有料オプション(eラーニングのみ)です。簿記3級程度の会計知識をお持ちでない方は、Part1または3の学習開始前に受講されることをお勧めいたします。

<https://www.abitus.co.jp/cia/>

■ 新宿 本校

〒151-0053

東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿マインズタワー15階

TEL : 03-3299-3330

FAX : 03-3299-3777

JR「新宿駅」南口徒歩5分・JR「新宿駅」甲州街道改札徒歩5分
都営地下鉄新宿線・大江戸線、京王新線「新宿駅」A1出口直結

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



■ 八重洲 校

〒103-0027

東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント4階

TEL : 03-3278-8800

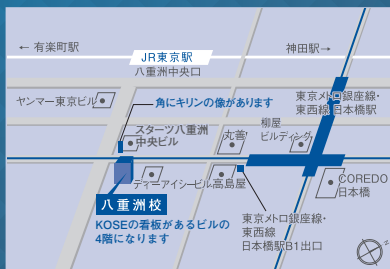
FAX : 03-3278-8801

JR「東京駅」八重洲中央口徒歩5分

東京メトロ銀座線・東西線「日本橋駅」B1出口徒歩3分

【営業時間】 平日 12:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



■ 大阪 校

〒530-0017

大阪府大阪市北区角田町8-1

梅田阪急ビルオフィスタワー21階

TEL : 06-6365-8660

FAX : 06-6365-8661

JR「大阪駅」御堂筋南口徒歩4分

阪急「大阪梅田駅」徒歩3分、地下鉄御堂筋線「梅田駅」徒歩2分

【営業時間】 平日 11:00 - 20:00
土日祝 10:00 - 20:00

【定休日】 木曜日



新宿本校 03-3299-3330

八重洲校 03-3278-8800

大阪校 06-6365-8660

受講相談専用メールアドレス

cia@abitus.co.jp